



目次

新年のごあいさつ	1
医療安全管理室より 「注意！！高齢者に増える薬のPTP包装シートの誤飲事故」	2
看護部だより「フットケア外来」 患者数	3
アラカルト「膝筋力アップ体操」	4
お国自慢〈山口県・下関市〉 通園ルームひまわり 平成23年度成人式	5
季節のレシピ〈ふろふき大根〉 新任医師紹介 地域医療連携室	6
外来医師担当表、特殊外来ご案内、編集後記	7

発行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会
国立病院機構
発行責任者：長沼博文
住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町11-35
電話：055-253-6131
ファックス：055-251-5597
ホームページ：<http://www.kofu-hospital.jp/>
Eメール：kofu@kofu.hosp.go.jp
携帯サイト用QRコード



「JUMP!」

この写真は富士山山頂で撮影したものです。晴天に恵まれて御来光と雲海がとても綺麗でした。昨年は震災などがあり、大変な一年でしたが、今年は皆様にとって飛躍の年であることを願いながら、この写真を投稿しました。

(写真・文 療育指導室 主任児童指導員 和田 聡)



独立行政法人国立病院機構
甲府病院の理念

理念

私たちは、良質な医療の提供を通して、患者さんの健康を支え、地域社会に貢献します

基本方針

- 丁寧な説明に努めます
- 自己研鑽に励みます
- 職員同士協力し合います

私たち職員は、理念を実現するため最善を尽くします
病院は、職員の働きやすい環境を積極的に提供します



「新年のごあいさつ」



病院長 長沼 博文

平成 24 年を迎え、平成 16 年 4 月に独立行政法人国立病院機構となって以来そろそろ 8 年が経過します。平成 16 年 10 月には旧西甲府病院と統合し、国時代の運営とは異なり 99% 独立採算の運営の形をとりスタートしました。

当院は、救急医療（小児救急を含む）、周産期医療、小児医療、重症心身障害医療、そして地域一般医療に取り組んでいます。このような役割を果たして行くにあたって問題点が幾つかあります。大きな問題は医師不足、看護師不足です。ここ数年救急医療を担う病院での医師が不足しており、県内の病院の救急体制を十分に取れなくなってきました。山梨県内の医師の数は年々少しずつ増えているというデータはありますが、救急を担う病院では増えていない現実があります。背景には、救急を担当する医師から見ると、救急患者を診るリスク、肉体的及び精神的負担が大きいことが挙げられます。それらを解決するには、担当医師の数が増えることが必要ですが、現状は反対の流れとなっているのが問題です。

医師不足を解消する為にいろいろな手段が考えられていますが、山梨大学では入学定員を増やし、奨学金制度もでき地元出身者が増えています。大学では、若手医師に

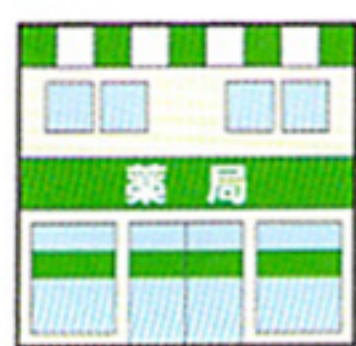
魅力ある研修システムを考え実行に移している教室もあり、期待されます。1 日も早く山梨県の病院に医師が十分に派遣されるようになる事を期待しています。

また、当院のように近くに総合病院が幾つかある場合には、機能分化が必要であると思います。当院が取り組んで来ている特徴的な医療としては、整形外科でのスポーツ膝疾患に対する膝内視鏡手術、消化器外科での腹腔鏡手術、糖尿病患者に対するフットケアです。腹腔鏡手術では、最近は新しい単孔式腹腔鏡手術[※]も行っています。各病院には必ず得意分野があると思いますので、それを充実させ機能を特化してゆけば、必然的に病院ごとの機能分担が起こってくると思います。そうなれば、より良質の医療を患者さんに提供できるようになると思います。

※切開箇所が一箇所済み、負担の少ない術式



忍野村より望む冬の富士山（写真提供：大森 大一 様）



医療安全管理室より

「注意!!高齢者に増える薬の PTP包装シートの誤飲事故」



薬剤科 薬剤師 寺田 芳弘

読売新聞に以下のような記事が掲載されました。

誤飲の対策としては以下のような方法があります。

<平成 23 年 12 月 8 日 読売新聞>

青森県の病院で 80 歳代の男性患者が 1 錠ずつ切り離した薬を包装シートごと誤飲した後、死亡していたことが分かった。

病院を運営する同市は管理責任を認め、遺族に 1500 万円の和解金を支払うことで合意した。

患者は 5 月 16 日、血液検査のため入院。17 日に「胃が痛い」と訴えたため、検査したところ、胃からシートに入ったままの薬 1 錠が見つかった。胃はシートの角で傷ついていたと見られ、止血措置をしたが、18 日に出血性ショックで死亡した。

調査によると看護師が PTP シートを 1 錠単位に切り離し、患者のベッド脇のテーブルに置いていたことが判明。死亡との因果関係は不明という。

死亡と包装シートの誤飲の因果関係は不明ですが、このような事故が起っています。

お薬を包装シートから中身の錠剤等を取り出して服用するのは当たり前だと思う方は多いと思いますが、実は今、包装シートの誤飲事故が増えています。

平成 22 年 9 月 15 日に独立行政法人国民生活センターより、高齢者などが医薬品を PTP 包装シートごと飲み込んでしまい、喉や食道などを傷つけるおそれがあると報告があり、各医療機関に注意喚起および周知依頼がありました。

独立行政法人国民生活センターの発表によると、包装シート誤飲の報告は 2000 年から 2010 年までの 10 年間に 86 件寄せられたそうです。

特に高齢者に多く、約 8 割が 60 歳以上の方でした。約 9 割が軽傷でしたが、食道や腹部などに危害が見られ入院した方も多数いました。

PTP 包装シートは X 線を透過しレントゲン写真での判別が難しいため、発見が遅れ重症化する可能性があります。

<PTP 包装シート誤飲対策>

1. PTP 包装シートを 1 つずつにバラバラにしない。
2. 高齢者 (特に 1 回の服薬量が多い人) は家族、介護者などにお薬の管理を頼む。
3. 一包化の活用

もし、PTP 包装シートを飲み込んだ可能性がある場合は、ただちに医療機関を受診してください。

またご家族に誤飲の可能性が高い高齢者がいる方やお薬の保管方法などにお悩みをお持ちの方は、ぜひお近くの薬剤師にご相談下さい。



お薬を服用される皆様へ

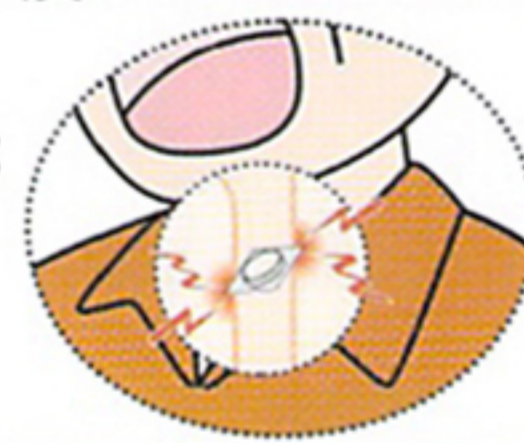
錠剤の取り出し方



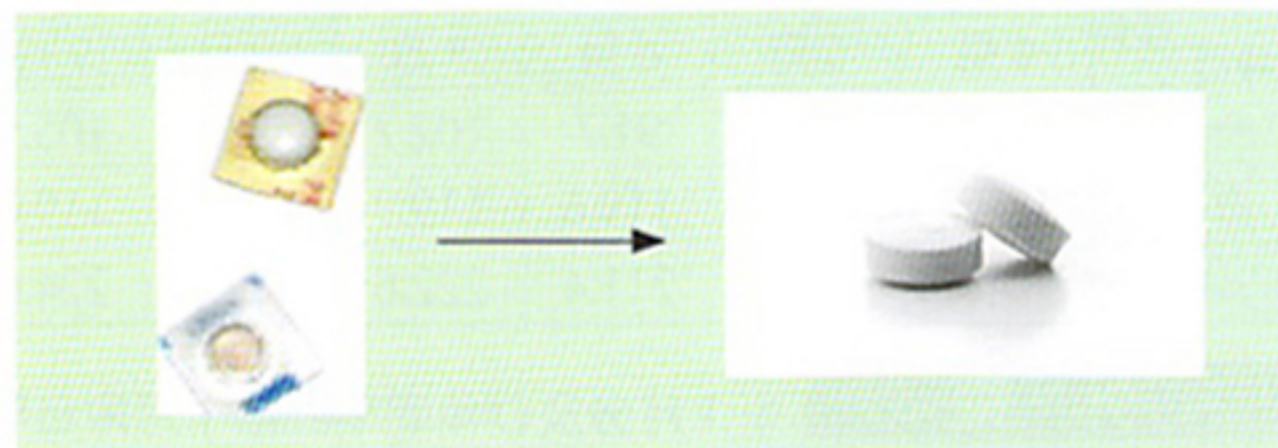
おくだす
おくすりは、
包装シートから取り出して
お飲みください!



包装シートのまま飲んでしまうと
のどや食道などをキズつけ
大変なことになります。



※幼児、高齢者の方が服用されるときは、保護者、介護者などの方に御注意頂きますよう、お願い致します。



※ 薬は、包装シートから中身を取り出して飲んでください!!



看護部だより



「フットケア外来」

副看護師長 市川 美生 看護師 秋山 晴美

当院では、平成21年10月にフットケア外来が開設されましたが、この度外来1Fスタッフステーション内にフットケア外来専用ブースが完成いたしました。とは言えまだまだ認知度が低いのではないかと思いますので、フットケア外来について紹介させていただきます。

糖尿病患者さんの中で足潰瘍（あしかいよう）や壊疽（えそ）という病気（糖尿病足病変）にかかる人が増えています。その背景には、足の神経がやられ、しびれが出たり痛みや温度を感じにくくなったりする神経障害と、動脈硬化により血液の流れが悪くなる血流障害というような合併症を持った人が増加していることがあげられます。また、高血糖状態は、身体の抵抗力を低下させ、細菌感染が起こりやすい状態でもあり、けがや靴ずれ、低温やけどなどから潰瘍や壊疽へ進んでしまうことがあります。

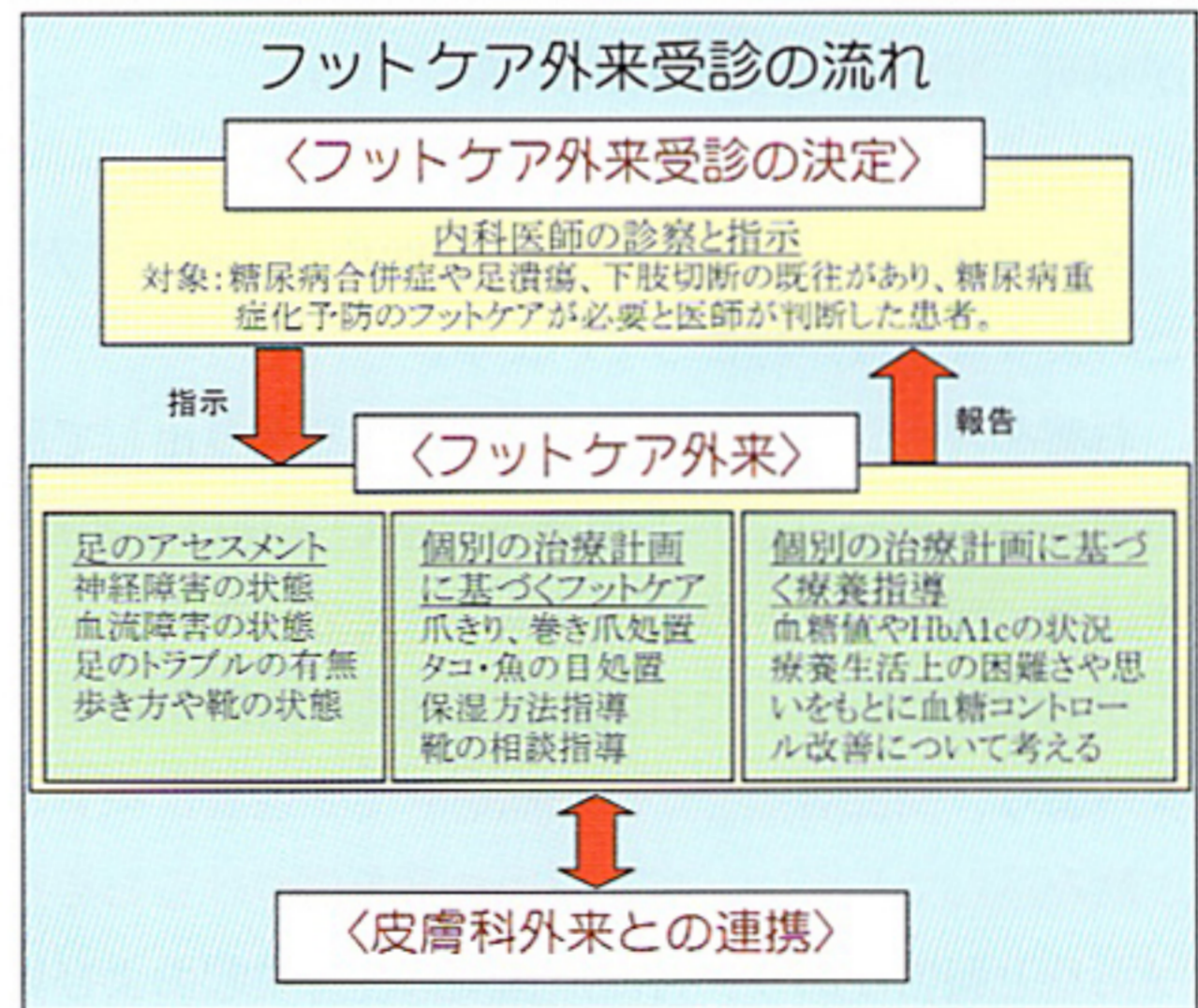
しかし、糖尿病足病変は、日々足の手入れを行って

いくことや血糖コントロールを行うことで予防が可能であると言われています。

フットケア外来では、糖尿病患者さんが大切な足を失わないように、定期的に患者さんの足の状態を観察し、爪切り、たこや魚の目の処置などを行ないます。また、患者さん自身で日々行っていただきたい足のお手入れ方法を伝えています。また、何より大切にしていきたいのは、血糖コントロールを良好に保つための日々の療養生活について患者さんと共に考えていくことです。

足の状態が気になったり、血糖値のコントロールに困難を感じていらっしゃる患者さんは、お気軽にご相談下さい。フットケア外来では、糖尿病重症化予防のためのフットケア研修を修了した看護師および慢性疾患看護専門看護師が患者さんの足を守るお手伝いとともにも療養生活についての相談や指導をさせていただきます。

フットケア施術の様子



平成23年度一日平均患者数

入院

※1月分及び年間累計は1月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

種別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一般		85.7	90.3	91.7	102.7	92.6	105.5	99.2	97.6	96.3	86.7			94.8
重心		119.7	120.3	119.6	119.9	119.1	119.0	119.9	120.6	119.7	119.2			119.7
計		205.4	210.5	211.4	222.6	211.7	224.6	219.2	218.2	216.0	205.9			214.5

外来

※1月分及び年間累計は1月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	256.8	272.9	254.3	270.3	258.8	286.3	273.3	285.9	300.5	284.6			273.8



アラカルト



「膝筋力アップ体操」

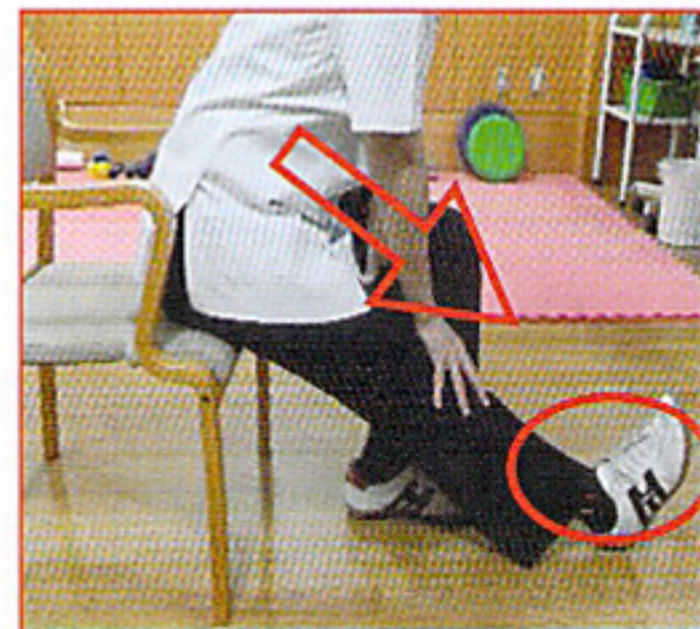
リハビリテーション科

主任理学療法士 浅見 誠 理学療法士 佐々木 智 理学療法士 浅野 厚雄

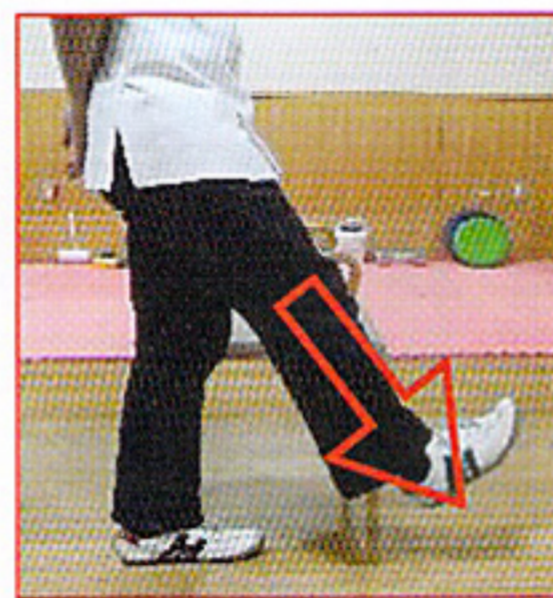
当科では平成 19 年 6 月のスポーツ・膝疾患治療センターの開設以来、膝半月板・前十字靭帯損傷などのスポーツ外傷を主体とした膝関節疾患に数多く関わる他に、変形性の膝関節疾患にも関わります。

変形性の膝関節疾患では変形や筋力低下を防ぐことが重要で、自分でできる体操や工夫をすることも一つの対策です。他にもいろいろな体操がありますが、以下に簡単な体操や工夫を紹介します。

1. 足の裏側伸ばし：ふとももの後ろ、膝の後ろ、ふくらはぎの後ろのストレッチです。
 - ①椅子に浅く腰掛けて、右足を伸ばす。
 - ②伸ばした足を床につけて、背中を伸ばしたまま腰からゆっくり前に倒し、5秒静止します。
 - ③この運動を4～8回行います。反対側の足も同様にやりましょう。



2. 片足上げ・下げ・斜め前伸ばし：ふくらはぎの後ろのストレッチとすねの筋肉強化です。
 - ①いすの背に軽く片手をつけ、両足をそろえて立ってから、いすから遠い側の足を持ち上げる。
 - ②足首を手前に曲げ、かかとを押し出す感じで斜め前方へ伸ばし、5秒静止します。
 - ③この運動を4～8回行います。反対側の足も同様にやりましょう。



その他、段差を上り下りするときの工夫（右側が気になる場合）

- ①一段ごとに足をそろえましょう。
- ②気にならない側に体重をかけましょう。（上るときは気にならない側の足から、下るときは気になる側の足から）

上るとき



下るとき





お国自慢



《山口県・下関市》

療育指導室 主任児童指導員 和田 聡

自分の出身地である山口県下関市は、本州の一番端にあり、九州と本州をつなぐ関門橋のある場所です。下関市は県庁所在地のある山口市より人口が多く、山口県で一番大きな都市になりますが、海や山など自然の豊かな場所です。



※関門橋

下関市のおすすめポイントは、「歴史」だと自分は思います。山口県自体が幕末に「長州藩」として歴史に名を刻んだ地域であり、奇兵隊で有名な「高杉晋作」の終焉の地が市街地にあたりと、歴史の好きな人にとってはおすすめの場所です。



※高杉晋作終焉の地

また、源氏と平家の「源平合戦」の最期の戦いが、「壇ノ浦の戦い」であり、下関市の彦島という地域が平家最後の地と言われています。「源平壇ノ浦の合戦」にちなんで毎年5月ゴールデンウィーク頃に開催される、「しものせき海峡まつり」は、関門海峡を舞台に繰り広げられた史実を基にした、歴史情緒豊かなお祭りです。「源平壇之浦の合戦」で滅びた平家一門を



※「先帝祭」の様子

偲ぶ豪華絢爛な「先帝祭」、数十隻の船に鎧武者が乗り込み、源平両軍の紅白ののぼり幟をたなびかせて行われる「源平船合戦」、などなどの様々なイベントはかなりの見ものです。

そして、2012年の今年の下関の大きなイベントとしては、宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島の決闘から



※巖流島の決闘の像

400周年という節目の年になります。関門海峡に浮かぶ巖流島の正式名称は「船島」と言い、この島で、慶長17年(1612年)4月13日に宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘

し、敗れた佐々木小次郎の流儀「巖流」をとって巖流島と呼ばれるようになったそうです。

最後に有名な食べ物の紹介をします。なんと言っても「ふく(河豚)」です。一般的には「ふぐ」と言われますが、下関では「ふぐ」を「ふく(福)」とかけて、縁起の良いものとしています。ちなみに「下関市民は毎日「ふく」を食べている」というイメージを持たれているようですが、高級品なので滅多には食べません。自分も今まで「ふく刺し」は一回しか食べたことがありませんが、美味しかったです。



※美味!「ふく刺し」

お近くにきたときは、是非、下関に足を運んで、古い歴史や美味しい食べ物を堪能してください。

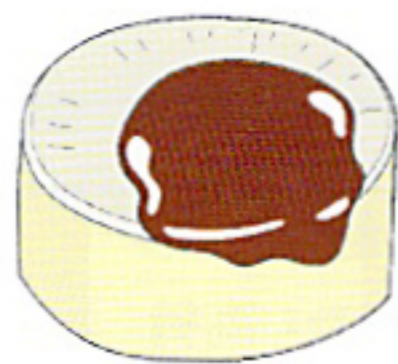
通園ルームひまわり 平成23年度成人式

1月13日(金)、通園ルーム利用者の成人式が執り行われました。鮮やかな色の着物を身にまとい可愛らしく、また凛々しい姿が輝いていました。

大勢の方から祝福の言葉をもらい、大人としての確かな一歩を踏み出しました。



(療育指導室 保育士 林野このみ)



季節のレシピ

《ふろふき大根》



栄養管理室長 矢吹 達雄

●作り方

【柚子味噌】

- ①鍋に味噌、味醂、酒、醤油、砂糖を全て入れ滑らかになるまでよく混ぜる。
- ②弱火にかけ、ヘラで底からかき混ぜ煮立たせ、すくってみてヘラに残るくらいの硬さになるまで煮る。
- ③煮上がったら火から下ろし、粗熱が取れるまで膜が張らない様によく混ぜる。
- ④粗熱が取れたら、柚子のしぼり汁を加えて軽く混ぜる。

【大根】

- ①大根は約3cmの輪切りにしてやや厚めに皮を剥き、面取りをし、片面に、十文字に切り込みを入れる。
- ②鍋に①の大根を切り込みを下にして入れ、米のとぎ汁を注いで強火にかける。
煮立ったら弱火にして約20分位茹で、水洗いする。
- ③鍋に昆布を敷き、②の大根を入れ、酒と大根がかぶるくらいの水を注ぎ、強火にかける。
煮立ったら弱火にして竹串がスッと通るまで約30分位茹でる。
- ④器に大根を盛り付け、「柚子味噌」をかけ、千切りにした柚子の皮を散らす。出来上がり。(調理時間 約60分)

—冬にうれしい大根料理第二弾♪—



★材料 4人分

大根(800g) 出汁昆布(5cm位) 米のとぎ汁(4カップ) 酒(大さじ1) 柚子の皮(適宜)

【柚子味噌】

味噌(大さじ3) 味醂(大さじ4) 酒(大さじ1) 醤油(小さじ1) 砂糖(小さじ2) 柚子のしぼり汁(適宜)

★栄養量 1人分 エネルギー 95kcal 蛋白質 2.8g 脂質 0.9g 塩分 1.9g

新任医師紹介

小児科医師

黒田 格

(くろだ いたる)



2012年1月4日付で、小児科医師として着任いたしました。

京都府立大学、東海大学を卒業後、山梨大学小児科で小児血液・腫瘍を専門に大学院を修了し、山梨県立中央病院小児科、新生児科で研鑽を積んできました。出身は京都ですが、この度、長坂に家を構えることになり、このまま山梨に骨を埋めることになりそうです。

慣れないことばかりでいろいろとご迷惑をおかけするかとと思いますが、よろしくお願ひします。

地域医療連携室より

肘・膝の外傷治療実績全国6位

DPC対象病院による全国病院別治療実績・手術件数(2010/7~2011/3退院患者統計)において、肘・膝の外傷(スポーツ障害含む)部門で国立病院機構甲府病院が全国6位(全国1,648病院中)となりました。昨年の11位から5ランクUPと大躍進です。

詳細はCalooホームページで確認できます。
(Calooホームページ <http://caloo.jp/dpc/disease/871>)

◎地域医療連携室・お問合せ先

連携室直通 電話 055-240-6223
FAX 055-240-6225



業務時間 平日 午前8:30~午後5:00

ナカヅフ アイヤマ スキモト
担当: 中澤 相山 杉本

外来医師担当表

平成24年2月1日～

			月	火	水	木	金
一階診察室	外科	診察室 1	鈴木	牧	角田	鈴木	牧
		診察室 2	浅川	角田	浅川	乳腺外来 高橋	肝臓外来 鈴木
	化学療法 (五階)	診察室 1		角田	鈴木		
		診察室 2		浅川	牧		
	内科	診察室 3	渡邊	10時～ 渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
		診察室 4	黒澤	黒澤	黒澤	呼吸器内科 菱山	黒澤
		診察室 5	午前	川口	古屋	古屋	中尾
	午後						神経内科 高木
	循環器内科	診察室 6	薬袋	佐野		薬袋	薬袋
	皮膚科	診察室 7		松澤			
脳神経外科	診察室 8	長沼	長沼	長沼	長沼	大学医師	
消化器内科	診察室 9	稲岡					
	診察室 10 (肝炎ウイルス外来)	澤田	澤田	澤田		澤田	
整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	萩野			萩野	萩野	
	2		落合	落合	落合		
	3	千賀				千賀	
	4		齋藤	齋藤	渡邊		
検査室	内視鏡	高橋	小暮	大学医師	澤田	浅川	
	エコー	午前			腹部 検査科 心臓 薬袋	腹部 検査科	
		午後			心臓 薬袋		
小児科	1	内田	内田	加賀	久富	久富	
	専門外来 1 (午後)	神経 溝呂木	神経 中村	神経 神谷	第1・3週 摂食 小野	代謝 内田	
	専門外来 2 (午後)	フォローアップ 久富	フォローアップ 久富				
産婦人科	1	滝澤	雨宮	高木	雨宮	滝澤	
	2	雨宮	高木	第1・3週 雨宮 第2・4・5週 滝澤	滝澤	高木	
	3	妊健 助産師外来			妊健 助産師外来		
眼科		予約のみ 10時迄 地場	地場	地場		地場	
泌尿器科			大学医師 (予約のみ)				
耳鼻咽喉科					矢崎		

- 受付時間 初診/午前8時30分～午前11時00分 再診/午前8時20分～午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)
- 予防接種(小児科) 毎週木曜日(完全予約制)
- 毎月第4金曜日 糖尿病教室 黒澤医師
- 乳児健診 毎週火・金曜日(完全予約制)
- 人間ドック 毎週木曜日 脳ドック 毎週月・火曜日午後

特殊外来のご案内

- ・「乳腺外来」については、毎週木曜日の午前中に高橋医師(女性)が行っています。乳房にしこりなどの異常を感じたら、すぐに受診されることをお勧めします。
- ・「肝臓専門外来」については、毎週金曜日の午前中に行っています。近親者に肝炎の方がいらっしゃるなど自分も肝炎にかかっているのでは、とご心配な方、健康診断で肝機能障害を指摘された方などは受診されることをお勧めします。
- ・「物忘れ外来」については、脳神経外科で行っています。ご家族が「忘れることが多い」と気づいたら、受診されることをお勧めします。

◇平成23年度 看護職員採用試験案内◇

助産師・看護師・看護助手採用試験は随時行っています。

申し込み方法 *下記の電話番号に(土日休日以外)に直接ご連絡下さい。

連絡先 国立病院機構甲府病院 庶務係長
TEL: 055-253-6131
FAX: 055-251-5579

編集後記

昨年末、「東京モーターショー」へ行ってきました。「若者の車離れ」などと言われる昨今ですが、今回のモーターショーでは会場内に多くの人がひしめき合い、特に話題の車両の周りに何重にも人垣が出来る様子は、幼少の頃初めて行ったときの、かつてのモーターショーの熱気を思いおこさせる程でした。

その要因として、「久々の東京開催」「海外メーカー展示の復活」「話題のスポーツカーの登場」といったことが挙げられていますが、私はそれ以上に、昨年の震災以来、何かと暗い話題が続く中、「自動車」を通して示される「明るい未来」——それが見たくて、人々はモーターショーに集まった——そんな気がしました。(Y)